

すべて計算機に記憶されているので、貨車の散転に従ってポイントも転換される。

リターダを脱出した貨車は、仕分線内を走行するが、主リターダの制御誤差、それぞれの貨車の走行抵抗の相違などがあるため、仕分線内にも構造の簡易なリターダを配置して、主リターダとほぼ同様な自動制御を行なう。そのシステムを図に示す。

2 入換機関車の遠隔操縦

無線による適当な符号によって機関車を自動操縦するもので、携帯用は操車掛が持ち、固定用は指令室等適当な場所に置く。これによれば夜間・荒天等における作業の困難性が緩和される。特にハンプの押し上げ機関車については、電子計算機を利用して分解表等に従って押し上げ速度を変化させることができるので、能率の向上が期待される。現在実用化についての試用試験が行なわれている。

3 貨車番号の照査装置

(1) 工業用テレビ (ITV) 到着線入口等にテレビカメラを置き、この前を貨物列車が通過する際にビデオテープにとって、後刻再生して貨車番号・車票を読み取るものである。

(2) 貨車番号自動識別装置 一定の規則に従って貨車に番号・行先等を示すラベルなどを張りつけ、ラベルの形・色・配置などを光学的に読み取る方法である。

以上の2方法について、現在開発研究中である。

4 貨車の情報処理

到着列車の連結順序表を原始データとして、電子計算機を利用して仕分線ごとに在線状況を分類蓄積し、列車の組成計画・貨報・出発列車の連結順序表等の作成を自動的に行なえる装置で、現在開発中である。これは全国的な貨車情報処理の一環をなすものである。

(池田 本)

じどうきゅうでんうんよう 自動給電運用 (英) auto-

matic operation of power system 国鉄の自営電力系統は、三つの発電所(小千谷・千手両水力発電所および川崎火力発電所、出力合計 387,500KW)と8箇所の交流変電所ならびに全亘長約 1,200km に及ぶ送電網から構成され、おもに東京を中心とする関東一円の電気運転区間へ電力を供給している。経済的な発電所運転計画を立て、負荷の増減に応じて発電所出力を調整する業務を一般に給電運用と称している。

自動給電運用は、これら広い地域にわたる電力系統の電力供給信頼度を高め、常に安定した電力を負荷に供給すること、ならびに水力発電所・火力発電所を合理的に使用して火力発電所の燃料費を節約し、電力系統を経済的に運用することを、おもな目的とするものである。

自動給電運用システムを構成するおもな装置は、図に示すように、信濃川の翌日の流量を想定する流量想定器、および翌日の電鉄負荷電力を想定する負荷電力想定器、想定された流量と負荷電力を基礎データとして水力発電所と火力発電所の経済的運用をはかる経済負荷配分計算機 (E. L. D.)、武蔵境・新鶴見両交流変電所の負荷側電力を集計する負荷集計装置、各種の計算結果を各発電所へ指令する中央出力制御装置 (以上の各装置は東京中央給電指令室に設置される)、東京から小千谷・千手両発電所に指令を伝える S. H. F. 指令伝送装置、指令を受けて発電機を自動制御する小千谷出力制御装置 (この装置は小千谷発電所に設置)、千手出力制御装置 (この装置は千手発電所に設置)、東京から直接、指令を川崎発電所へ送る指令伝送装置、発電機を自動制御する川崎出力制御装置 (この装置は川崎発電所に設置) などである。——電鉄用変電所。 (宮本雅夫)

じどうきゅうゆそうち 自動給油装置 計量器付自動給油装置、または、定量給油装置ともいわれている。

ディーゼル車両給油装置の一部で車両基地内の仕業・給油

国鉄自営電源系統自動給電システム

